

2019年度 学 校 経 営 計 画

富山県立高岡高等学校

1 学校教育目標

教育基本法にのっとり全人的教養と社会性の啓培に努めるとともに、伝統的な校風である「質実剛健」「自主自律」の精神を育成する。

教育方針

「質実剛健」「自主自律」の校風のもと、全人教育を基盤とし、生徒の進路実現を著実に図るとともに、次代を担うリーダーとしての素養の伸長に努める。

- (1) 真理を愛し、幅広い知識と教養を身に付け、知性に根ざす豊かな人間性を培う。
- (2) 自主的な活動をとおして、自他敬愛の念や協力的な生活態度を育成するとともに社会の発展に積極的に寄与していこうとするリーダーとしての資質や能力の伸長を図る。
- (3) 個性を伸ばし、自己の確立に努めるとともに、高い志を持ち、進路実現や目標の達成に粘り強く取り組む姿勢を養う。
- (4) 健康で規則的な生活習慣を身に付け、心身の調和のとれた成長を図るとともに、よりよい人間関係をつくり、生活を改善・充実させていこうとする前向きな態度を育てる。
- (5) ふるさとに誇りと愛着を持つとともに、体験等をとおして国際理解を深め、グローバル・リーダーとしての国際的素養を養う。

2 学校の特徴

創立より 120 周年の歴史と伝統を持ち、生徒のほとんどが国公立大学をはじめとした 4 年制大学へと進学する本校は、将来の国際社会や我が国を担うリーダーの育成を期待されている。これまでも昭和 43 年度の理数科の開設をはじめ、平成 15 年度のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定、平成 23 年度の理数科を改編しての探究科学科（理数科学科・人文社会科学科）の開設など、高校教育の充実に向け、先導的な役割を果たしてきた。現在は各学年普通科(5 学級)と理数科学科・人文社会科学科(2 学級)を併設した全学年 7 学級体制である。平成 26 年度から 5 年間はスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け、「ふるさとに誇りと愛着をもったグローバル・リーダーの育成」に向け、課題研究や体験活動を系統的に取り入れ、思考力や判断力・コミュニケーション能力の伸長に重点的に取り組んだ。

3 学校の現状と課題

本校はこれまで高い知性と徳性を培う全人教育を実践し、県内外に数多くの有為な人材を輩出してきたが、近年の社会の急激な変化に伴い学校を取り巻く環境も大きく変化し、新たな課題が生じている。

これらに対し、本校の伝統的な校風である「質実剛健」「自主自律」を体現する「自ら学び、考え、行動する生徒」の育成をめざし、以下 6 つの観点を重点事項とし、一層の教育充実に向けていきたいと考えている。

- (1) (授業改善の推進) 生徒の優れた能力を引き出すため、主体的・対話的な深い学びにつながる授業改善と指導方法の研究に努める。
- (2) (自学自習の定着) 授業と自学自習のサイクルで効果的に学力の向上を図る。
- (3) (進路意識の向上) 3 年間を見通した計画的・継続的なキャリア教育、進路学習等を行う。
- (4) (多様な支援の充実) 校外の教育力を有効に活用し、個々の実態に応じた支援に努める。
- (5) (自主活動の充実) 豊かな人間性を培う生徒の主体的な取り組みを支援する。
- (6) (グローバル・リーダーの育成) 探究活動や海外交流等の一層の充実を努める。

4 学校教育計画

項目		目標及び計画	
1	学習活動 重点1 ①② ③	目標	学校教育目標・教育方針に即した全人教育をめざし、各教科・科目において、生徒自らが問題意識を持って探究し、解決する主体的学習態度を育成する。
		計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 高校の学習への円滑な移行と自主的学習習慣の早期確立を促し、主体的な学習活動の実現を支援する。<u>生活記録を利用した面接指導</u>などを通して生徒の生活実態の把握に努める。 ② 生徒の学習の進め方に即し3年間を見通した、各教科ごとのシラバスを作成する。<u>教科部会等を通して指導者が互いに連携し、効果的な指導法の検討を行い、改善を図る。また、生徒課題の内容や量、時期について教科間のバランスを調整する。</u> ③ 野外実習や施設見学などの体験学習を実施し、生徒の興味・関心を高め視野を広げる。課題研究等により問題設定・解決能力を育成する。知的好奇心の向上のため理数系の思考力を要する大会等への参加を促す。<u>また、グローバル人材の基盤となるコミュニケーション能力を高めるため、英語ディベート大会やプレゼンテーション大会への参加や各種英語資格取得を促進する。</u>
2	進路支援 重点2 ①②	目標	自分の将来の生き方あり方を早期に確立し、その実現に向け生徒個人のもつ適性と能力を十分に伸ばし、さらにコース登録など進路を選択する様々な場面で、適切な情報を提供し、考える機会を持たせることにより自己実現を支援する。
		計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 3年間を見通したキャリア教育に基づき、各時期に応じた進路講演会や職業理解講座等を開催し、自己像の確立を支援する。特に、<u>国内外で活躍する社会人の講演や同窓生の体験から学ぶ機会を設け、社会に貢献する自己を想像させ、学ぶ意欲を喚起させる。</u>また、国際機関の見学等を取り入れ<u>国際的な視野を持たせ、海外研修</u>を通して海外大学についても調査する。 ② 「総合的な学習の時間」における進路研究、大学学部学科紹介の実施、<u>大学見学やオープンキャンパスへの参加</u>、面接指導等を通して進路先の選択を支援する。 ③ 入試問題や入試動向を研究・分析し、<u>生徒の進路実現への確かな学力を養成する。</u>
3	学校生活 重点3 ①②	目標	心身共に健全で調和のとれた主体性をもった人間の形成を推進する。また、様々な生徒に対応し適切な支援が行える体制づくりに努める。安全・安心な学校、事故のない学校をめざし、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
		計画	<ol style="list-style-type: none"> ① <u>新入生説明会やPTA研修会等で保護者対象の講話</u>や新入生対象のエンカウンターを実施し、学校への不適応等の予防的援助を行う。 ② <u>スクールカウンセリング、事例研修会の実施</u>により、個々に応じた適切な援助を行う。 ③ <u>校門指導や集会等により服装や挨拶への意識を高める。</u>校則や社会規範の遵守を促す指導を進める。 ④ <u>交通事故の予防や交通マナーの改善、危機管理能力の育成に努める。</u>スマートフォンの危険性や利用マナーについての啓発を進める。 ⑤ 生徒保健委員会で「保健だより」を発行し、健康保持に関する啓発活動を行う。 ⑥ 交地内外の環境美化に積極的に取り組ませ、学校や地域への帰属意識や愛着を深める。

項 目		目標・及び計画	
4	特別活動 重点4 ①② ③	目 標	豊かな人間性と情操の育成及び自主自律の精神、自他敬愛の念と協調的な生活態度の育成を図る。また、読書活動の推進と生徒図書委員会の活性化を図る。
		計 画	<p>① <u>部活動への積極的な参加</u>を通して、活動の充実感や目標の達成感を味わわせるとともに、学年の枠を越えた良好な人間関係の確立を図る。</p> <p>② ホームルーム活動を通して、教師と生徒、生徒相互の良好な人間関係を築く。</p> <p>③ <u>生徒会活動に積極的に参加し、生徒会が関わる学校行事を計画的に運営する能力を高める。特に、奉仕精神を涵養するためボランティア活動への参加を呼びかける。</u></p> <p>④ 蔵書の適切な更新を進めて有用な資料を展示するとともに、図書館の活用法を指導して、自主的に学ぶ態度を育成する。</p> <p>⑤ 生徒図書委員会による広報活動を活発化し、読書への意欲を高め<u>貸出冊数の増加を図る。</u></p> <p>⑥ <u>文化講座や教科・学年と連携したビブリオバトル、読書会を開催し、総合的な知性の啓培に努める。</u></p>
5	その他 重点5 ①②	目 標	ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダーの育成に努める。保護者や同窓会との連携を図る。
		計 画	<p>① <u>人文社会科学科及び理数科学科においては、SGH 事業の成果を生かすと共に、課題研究等の探究活動を通して協働性を養い、リーダーとしての資質を高めるよう一層の充実を図る。</u></p> <p>② <u>PTA だより、同窓会報、ホームページ、学校紹介の掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。</u></p> <p>③ 昨年度実施したアメリカ合衆国における海外研修を今年度も実施し、内容等の一層の充実を努める。</p> <p>④ <u>海外研修の実施に向けて生徒・保護者への説明会等を開催し、グローバル人材育成に向けた実践への理解の普及と意識の高揚を図る。</u></p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2019年度 高岡高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	自律的で主体的な学習者を育むための学習指導	
現 状	<p>・これまで本校の生徒は、授業を大切にし、与えられた課題にきちんと取り組む姿勢が見られた。しかし近年、学習習慣が十分に身につけていない生徒が増えているという声がかかれる。また、積極的に質問を行い、納得いくまで理解しようとする姿勢の生徒が減っているとの声もかかれる。今後の変化の激しいと予想される社会で活躍するためには、自律的に主体性を持って他と協働して物事に取り組む姿勢がますます重要になる。</p> <p>・このような生徒の育成のためには、1年次にはまず学習習慣を身につけることが重要となる。また3年間を通して、生徒の自主性を育み、協働して物事に取り組む体験も必要となる。さらには教員側も現在の生徒に適合した指導方法を研究実施することも大切である。</p>	
達成目標	①②学習課題への取組アンケート(1, 2年生)における生徒の学習意欲の向上	③互見授業の実施
	<p>①計画的な学習習慣を身につけ、自己の学習活動を振り返って次につなげている。 80%以上</p> <p>②疑問点は友人や先生に質問して理解をした。 80%以上</p>	③ 2回以上授業見学し、「効果的な授業」について研究する教諭 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間調査を行い、生徒の取り組み状況を分析する。 ・互見授業を2学期に3週間行う。TKRや課題研究を行っている授業、ICTを活用する授業などの実施時間・使用教室を全教員に案内し、参加率を上げる。 ・「互見授業」を通して得られた「効果的な授業」のポイントについて簡単なレポートを教員各自が作成する。 ・新たに導入された総合的な探究の時間において、探究的活動の充実をはかる。 ・今年度から2学年普通科で2単位実施されることになった総合的な学習の時間において、自主性と協同性を育てる。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	高い意識を持たせる進路指導	
現 状	<p>・大学への進学意識は高いが、その目的が明確でないことや成績が伴わないことから安易な進路目標を設定する生徒が見受けられる。文理分けの際に、教科の得手不得手のみを材料にしたり、仕事内容を考えずに資格が取れるからを理由に決定する生徒も少なくない。また、志望大学決定の際に、現段階の学力で入学できそうな大学を探す傾向も見受けられる。高い志望を実現させるため、それに見合う学力・資質を身につけさせ、生徒の進路実現を継続的に支援する必要がある。</p>	
達成目標	①面接指導の回数 (進路意識を高揚させるもの)	②志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)
	①各学年 年 5 回以上	②合格率 58%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望を踏まえ、生活実態調査や通年成績表等を分析することにより、生徒の実態を正確に把握し、適切な面接指導を行う。 ・外部講師による職業理解講座を通して、望ましい職業観を醸成させ、文理や学部・学科選択に役立たせる。 ・卒業生による学部学科紹介を通して、大学での学問を深く知るとともに高校での学習に対する強い動機付けとする。 ・入試問題研究を十分に行い、授業力を向上させ、生徒の学力養成に生かす。 ・3年生の個別指導（教科添削、小論文指導等）を通して、生徒一人一人に応じた学力の伸長を図る。 ・校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報収集・分析により、志望校選択を支援する。また必要とする卒業生に対しても、積極的かつ継続的に進路支援を行う。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・不適応傾向の早期把握と問題発生の予防 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を営む上で重要な、基本的なマナー・規範意識を身につけずに来ている生徒が増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。また、自己の生活習慣の見直しを指導し、他人を思いやる気持ちを育て、いじめの防止にもつなげたい。 ・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が毎年見られる。その実態と要因を早期に把握し、適切な支援を行うことはもとより、教育相談を保護者・全職員で行うという意識を高め、問題発生の予防を図っていく必要がある。 	
達成目標	①各種事故の発生件数減少と生徒の実態把握を目的とした声かけ	②スクールカウンセリング等の活用による適切な対応と保護者・全職員間の意識向上
	①登校時の校門指導週間 年 6 回	②教育相談だより発行 年 10 回 カウンセリング等 年 30 回 教職員等対象研修会 年 2 回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の挨拶・服装・交通安全指導により、規範遵守の自覚を促す。 ・街頭での交通マナー遵守の指導や 1 年生対象に交通安全教室を実施。 ・「情報モラル・セキュリティに係る講演」や面接・集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。 ・被害状況調査を実施し、生徒の現状を正しく把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修会により、面談の仕方等を学ぶことで、生徒に寄り添いながら、信頼関係を構築していくという姿勢を醸成する。 ・担任や学年との連携を密にして問題の早期把握に努める。 ・講演会や教育相談通信を通じて保護者に適切な情報を提供することにより、協力体制の構築に努める。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動と学校行事の充実 ・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に部活動は活発に行われている。学習との両立をはかり積極的に取り組んでいるが、活動の質の良さや目的意識の明確性に欠けたり、部員数の減少により活動内容が不十分な部も見受けられる。 ・学校行事においては、体育大会、文化祭などクラス内の団結力を高める良い機会になっているので、生徒には、良い環境でよりよい充実感・達成感が得られるように工夫している。 ・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちである。日常的に読書に親しむ習慣を育て、普段から図書館へ来館するよう、より一層の教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。 ・図書館の利用者を増やすため、生徒図書委員会の活動を活発化し、読書以外の面においても図書館に対する関心を高めたい。 	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や結果に対する満足度の向上	②図書貸出冊数の増加 ③文化講座と読書会の開催
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上	②図書貸出冊数 1,848冊以上 ③文化講座と読書会の開催 年3回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の年間・月間活動計画を作成し計画的で質の高い活動を目指す。 ・行事そのものの内容を充実させ、準備作業を計画的に行えるようにする。 ・アンケートを実施し、充実度や満足度を確認し指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・英語科と提携して図書館でビブリオバトルを実施し、図書館の利用機会を増やす。また、ホームルーム活動での図書館利用推奨や推薦図書の掲示等、広報活動を積極的に行う。 ・生徒図書委員を文化講座と読書会の企画運営に積極的に関わらせ、また、学級文庫を管理させることでクラスの読書活動の推進役であるという自覚を促す。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の進路実現への連結 ・保護者や同窓会との連携 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の大学との連携に加え、その他の外部機関との連携を図る必要がある。また、探究活動の実践成果を学力向上や進路実現につなげ、その成果を広げる体制づくりが必要である。 ・本校に対する保護者や同窓会、地域の期待は大きい。PTA 総会や保護者対象の各種研修会への参加率はかなり高いと思えるが、この現状に甘んずることなく、本校教育活動の広報を一層推進する工夫が必要である。 	
達成目標	①課題研究・探究活動における大学や外部機関との円滑な連携	② PTA 総会や学年研修会等の出席率向上
	①大学との連携 年 3 回 外部機関との連携 年 4 回	② PTA 総会や学年研修会等の出席率 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題研究や探究活動では、大大学等との連絡を密にし、校内では、進路指導部や学年と連携を図り、探究活動や研修が学力向上・進路実現につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。 ・ホームページや探究通信、オープンハイスクールなどを活用し探究科学科の内容や魅力について紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の各種研修会の内容について、PTA 会員の意見も反映するよう努め、前年度の踏襲に終わらないよう工夫を重ねる。 ・PTA だより等の広報パンフレットの掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)